

働き方改革の星

★AICHI WISH 企業★

自動車向けなどの部品加工を手掛ける前田鉄工所は今年4月、「AICHI WISH」企業に認定、3つ星を取得した。バリ取りロボットの新規導入で従業員の業務負担を軽減したほか、休日を増やすなど、働きやすい環境づくりを推進している。ロボットは今後も増やす方針だ。

同社は自動車や建設機械、農業機械などに使われる部品を加工。自動車向けは歯車やシャフトなどが中心。100個程度の少量から20万個など大量生産まで幅広く対応している。

働き方改革に乗り出したのは、前田孝文社長の長男・基樹取締役が数年前に後継者として入社したのがきっかけだ。前職の大手コンサルティング会社では人事関連の業務を担当し、働き方改革への意識が高かった。

前田鉄工所

バリ取りロボットを3台に増やし、現場の労働環境を改善した



後継者入社で働き方改革へ

ロボ積極導入で業務負担軽減

当時、前田鉄工所では従業員の入れ替わりが多いこともあり、前田社長と話し合い、働き方改革に注力する方針を固めた。具体的には、バリ取りロボットの導入拡大で従業員の業務負担を軽減したり、残業時間の削減、休日の増加などに取り組んできた。

【企業メモ】 本社＝名古屋市中川区東起町3の36の2▽電話＝052・381・4095▽設立＝1960年▽社長＝前田孝文▽従業員数＝49人(男性42人、女性7人)▽年商＝約10億円(2018年9月期)

バリ取りロボットはもともと1台だったが、3台に増設。元々は人手でバリ取りを行っていたが、製品構成の変化によって、見た目では分かりにくく、指先で触らないと分からないバリが増えていた。バリ取りが必要な部品は月間数万個にもなっており、前田取締役は「手作業ではかなりの集中力が必要となり、負担も大きかった」と振り返る。2台増設したことで投資負担がかさんだが、2人分の作業を減らせるインパクトがあったという。

設備投資以外の働き方改革では、昨年度まで96日だった年間休日を今年度は103日に拡大。土曜日は隔週の出勤だったが、月1回に減らした。

前田取締役は「人に優しい会社を目指す。社員が疲弊しない環境をつくりたい。業務負担の重い作業を人間から引き離すことが大事だとし、今後も働き方改革を念頭にロボット導入を進める考えを示している。」

(随時掲載)